



SAKENOMIBA SITE

酒呑場遺跡

G区



1996

山梨県長坂町教育委員会

山梨県長坂町

酒呑場遺跡 G区

特定環境保全公共下水道事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1996

山梨県長坂町教育委員会

序

大自然に恵まれたハケ岳南麓のほぼ中央に位置する長坂町には、現在200ヶ所近くの遺跡が立地しています。なかでも縄文時代の遺跡は町内ほぼ全域で高密度に分布し、酒呑場遺跡、柳坪遺跡、頭無遺跡、長坂上条遺跡などは中部高地の代表的な縄文時代遺跡として知られます。

さて、長坂町では環境保全をすすめるために下水道敷設事業を展開しております。今回、縄文時代遺跡としては町内屈指の規模が予想される酒呑場遺跡内にも下水配管が計画されたため、町教育委員会では遺跡の記録保存を行いました。本書はその成果を記したものです。広大な遺跡からみれば調査範囲はごく僅かな面積ですが、10軒もの縄文時代中期の住居址が密集して発見されました。

なお本遺跡は酪農試験場の全面改築にともない、山梨県埋蔵文化財センターが昨年來発掘調査をすすめているところでもあります。今回の調査とあわせてハケ岳南麓を代表する縄文時代遺跡の内容が、徐々に解明されていくものと期待されます。

本書が教育や研究の場で活用されることを願うとともに、調査を支援して下さった住民の方々、山梨県酪農試験場および山梨県埋蔵文化財センターの皆様に深く感謝申し上げます。

平成8年3月

長坂町教育委員会

教育長 小松 清寿

例　言

1. 本書は山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条酒呑場に所在する酒呑場遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は特定環境保全公共下水道事業長坂地区処理・水管渠工事にともない、長坂町環境課からの委託を受け長坂町教育委員会が実施した。
3. 本書の編集は小宮山隆（長坂町教育委員会埋蔵文化財担当）が行った。
4. 本書作成に囲むる業務は小宮山の他に吉田光雄（同遺跡調査補助員）、石川昭江、井出仁美、長田加代子、清水純代、橋本はるみ、日向登茂子、深沢憲子（同遺跡整理作業員）が行った。また石器の器種分類作業は村松桂幸氏（山梨県埋蔵文化財センター）の協力を得た。
5. 発掘調査、遺物等の整理及び報告書の作成にあたり以下の御指導をいただいた。心より謝意を表します。（順不同・敬称略）
　小野正文、保坂康夫、山本茂樹、野代幸和、今福利恵、竹田真人、村松桂幸、高山茂明、
　北巨摩市町村文化財担当者会
6. 出土品及び図面・写真は長坂町教育委員会が保管している。

Contents

もくじ

序

例言

第1章 調査の経過	5
1. 調査にいたるまで	5
2. 遺跡の概要	5
第2章 遺跡をとりまく環境	6
1. 遺跡の位置	6
2. 遺跡の歴史的環境	6
第3章 遺構と遺物	8
1. 住居址	8
2. 遺構外出土遺物	9
第4章 まとめ	31

参考文献

挿図

図1 基本層序	5	図18 7号住 出土遺物④	20
図2 周辺遺跡分布図	7	図19 7号住 出土遺物⑤	21
図3 調査区位置図	9	図20 8号住 出土遺物	21
図4 全体図G1	10	図21 9号住 出土遺物	22
図5 土器出土状況	10	図22 10号住 出土遺物	22
図6 7号住居址	11	図23 一括出土遺物	22
図7 7号住 土器出土状況	12	図24 土偶	23
図8 8号・10号 住居址	13	図25 1号住 出土石器	24
図9 10号住 土器出土状況	13	図26 2号住 出土石器	25
図10 1号住 出土遺物	14	図27 3号住 出土石器	25
図11 2号住 出土遺物	14	図28 5号住 出土石器①	25
図12 3号住 出土遺物	15	図29 5号住 出土石器②	26
図13 5号住 出土遺物	15	図30 5号住 出土石器③	27
図14 6号住 出土遺物	16	図31 6号住 出土石器	27
図15 7号住 出土遺物①	17	図32 7号住 出土石器	28
図16 7号住 出土遺物②	18	図33 9号住 出土石器	29
図17 7号住 出土遺物③	19	図34 出土石器（石鑿・石匙・石錐など）	29

図版

図版1 酒呑場遺跡、G1区全景	32	図版9 6号住 出土土器	33
図版2 7号住 全景	32	図版10 7号住 出土土器	33
図版3 7号住 土器出土状況	32	図版11 7号住 出土土器	34
図版4 7号住 土器出土状況	32	図版12 8号住 出土土器	34
図版5 7号住 土器出土状況	32	図版13 9号住 出土土器	35
図版6 6号住 炉周辺	32	図版14 10号住 出土土器	35
図版7 2号住 出土土器	32	図版15 土偶・块状耳飾	35
図版8 3号住 出土土器	33		

第1章 調査の経過

1. 調査に至るまで

長坂町長坂上条字酒呑場地区は今日その大部分が山梨県酪農試験場の敷地として利用されているが、同時にこの敷地周辺は町内でも屈指の遺物量が散布する大規模な遺跡として知られている。長坂町では1995（平成7）年度に下水道敷設事業の一環として酪農試験場の排水処理を目的とした管渠工事を計画した。

一方、同試験場はすでに1994（平成6）年から全面改築を行う計画であったため、山梨県教育庁埋蔵文化財センターが試験場敷地内のほぼ全域の発掘調査を行いつつあり、縄文時代前～中期の住居址やピット等が全面に展開していることがこの時点で判明していた。長坂町教育委員会では町の下水道予定路線が試験場改装工区内に含まれていたことから、県教育委員会への調査依頼について協議した。しかし、町事業にともなう埋蔵文化財発掘調査は町教育委員会が実施するべきであるとの県教育委員会の見解に従い、町教育委員会は下水道事業担当課である町環境課と酒呑場遺跡発掘調査について協議を重ね、1995（平成7）年7月11日に協定を交わし、発掘調査が開始された。調査が終了したのは同年10月である。このように同一の遺跡を異なる二つの機関が同時期に調査したことにより、表土掘削等の調査作業能率が低下しただけでなく、遺構確認や遺物とりあげ時の混乱、さらに発掘作業員の心理的負担といった諸々の非効率要素を生じさせた。

2. 遺跡の概要

本調査は下水道管渠敷設路線の掘削部分を対象とした。したがって幅0.9m～1.5m、延長約360mの細長い調査区となった。確認された遺構は縄文時代中期前葉から同中期後葉の住居址10軒である。出土遺物は縄文時代中期初頭から同後期にかけての土器や石器類と土製品である。なお、本調査区は県埋蔵文化財センター設定調査区の「G区」に相当し、北側をG1区、南側をG2区とした（図3）。

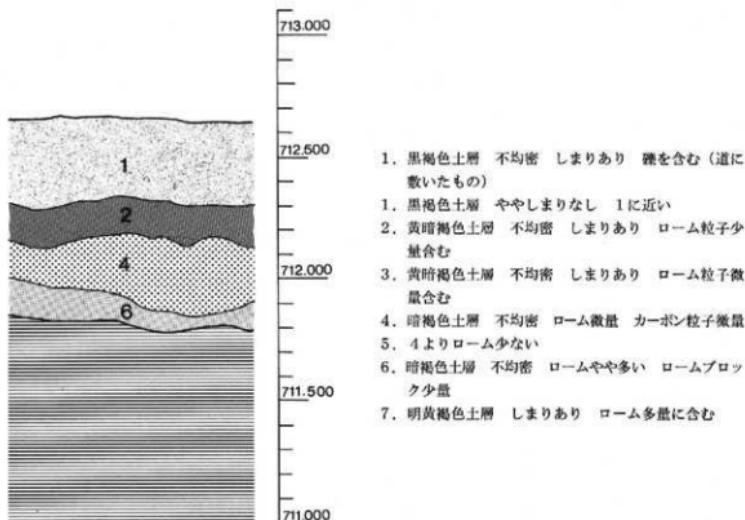


図1 基本層序

第2章 遺跡をとりまく環境

1. 遺跡の位置

酒呑場遺跡は北緯35度49分5秒、東経138度22分16秒付近に位置し、遺物の散布する範囲は少なくとも3~4ha以上に及ぶ八ヶ岳南麓でも最大規模に属する遺跡といえる。遺跡が立地するのは、大深沢川と宮川とに挟まれた広大な舌状台地中央から東側にかけての平坦面である。この台地は通称「長坂台地」と呼ばれ、権現岳爆発破壊による八ヶ岳火砕流によって形成された。遺跡地の標高は690~715mで、本調査区は714m付近を測る。台地上から西の大深沢川までは約80m、東の宮川までは約20mの高低差がある。

2. 遺跡の歴史的環境

本遺跡周辺の考古学的情報はすでに1940年代から中央学会にまで知られていた。1940(昭和15)年、東京の史前学会を主宰する大山柏は地元の井出佐重らの協力を得て、本遺跡から南南東約0.7kmほどの台地端部緩斜面を発掘調査しその成果を史前学雑誌に報告している¹⁾。大山らの調査では数基の配石遺構(配石墓か?)とともに縄文時代後晩期の土器・石器・土製品が多量に出土した。ここで報告された晩期土器は戦後しばらくまで、甲信地方の標準的な晩期土器群として扱われ、その発掘地点は「長坂上条遺跡」と呼ばれるようになった。この長坂上条遺跡と今回調査した酒呑場遺跡は、地元長坂町では大山らの調査の記憶が薄らぐなかでしばしば混同して扱われたが、酒呑場遺跡が台地上でありそこから高低差にして30m近く低位面に立地する長坂上条遺跡は言うまでもなく別個の遺跡である。中心となる時代も前者が縄文時代前期後半から中期後半であるのに対して、後者は同後期後半から晩期後半と述いがある。

この他に、本遺跡の周囲には北村遺跡(古墳時代前期方形周溝墓群)、龍角遺跡(古墳時代中期集落)、長坂氏館跡(中世居館跡)などの多くの遺跡が分布している(図2)。

番号	遺跡名	種別	所 在 地	時 代	備 考	番号	遺跡名	種別	所 在 地	時 代	備 考
100	高松	散布地	長坂上条字高松3093 他	縄(中、後)	758m	107	西村	散布地	長坂上条字西村1249	古墳、平安	670m
101	上町	散布地	長坂上条字牛込2087 他	縄(中)	730m	108	中坂	散布地	長坂上条字小坂1254 他	縄(中)	670m
102	酒呑場	H6~8	長坂上条字酒呑場621~1 他	縄(早、中、中)	710m	109	轟石瓦理群	散布地	長坂上条字轟石1032	古墳、平安、中世	680m
	調査		百堵、平安			110	丘田	散布地	長坂上条字丘田370 他	縄文、平安	666m
103	東村	散布地	長坂上条字東村1204 他	縄(後)、平	661m	114	大坂	散布地	長坂上条字大坂001 他	縄(中、後、地)	780m
104	東村B	散布地	長坂上条字東村1170 他	古墳	673m	106	下北南	散布地	長坂上条字日向2304	縄(中)	740m
105	中村	散布地	長坂上条字中村1236 他	古墳、平安	670m	171	森原上条	散布地	長坂上条字中条708 他	縄(中、後、地)、平	665m
106	種田	散布地	長坂上条字種田971 他	平安	670m	195	酒呑場東	散布地	長坂上条字酒呑場710 他	縄(中)、竹、平	700m

¹⁾ 大山柏・竹下次作・井出佐重1941「山梨県日野春村長坂上条発掘調査報告」『史前学雑誌』13-3 1-29頁 史前学会

図2 遺跡分布図



第3章 遺構と遺物

1. 住居址

○1号住居址（図4・図10）

G1区の最も北側で確認された。住居中央付近は擾乱されていた。

（出土遺物）土器は中期中葉から後葉にわたる。図10No.9の深鉢底部は住居床面から出土した。単節繩文R Lを地文とし、左右に2本単位の沈線で区画された隆帯が垂下する。五領ヶ台2式と思われる。石器は打製石斧13点、横刃形石器1点、凹石1点、石鏃1点が出土した。

（推定時期）五領ヶ台2式期。

○2号住居址（図4・図11）

G1区、1号住居址の南で住居のほぼ中央部を調査した。整穴の直径はおよそ6mと推測される。

（出土遺物）土器は中期前葉から後葉にわたる。図11No.32の小型の深鉢は輪積底上に押引文と爪形文を施している。阿玉台2式並行の粗製タイプと思われる。図11No.26の深鉢は単節繩文R Lを地文とし、口縁部に隆線による渦巻き文、胴部には2本単位の平行沈線によると蛇行沈線を施している。加曾利E3式と思われる。石器は打製石斧6点、凹石3点、石鏃1点が出土した。

（推定時期）中期後葉。

○3号住居址・4号住居址・5号住居址（図4・図12・図13）

G1区、7号および8号住居址の周囲で床状の遺構面を3ヶ所確認し、それぞれ住居址とした。

（出土遺物）土器は中期前葉から後葉にわたる。図12No.6の浅鉢は3号住居址から出土した。口縁部に棒状工具による押引文を施している。洛沢式と思われる。石器は3号住居址が打製石斧2点、横刃形石器1点、石鏃1点、4号住居址が石鏃4点、石錐2点、石匙2点、5号住居址が打製石斧が15点、磨製石斧1点、凹石1点、石鏃7点（内未製品3点）、石匙3点、スクレーパー1点、加工痕のあるフレーク1点が出土した。また5号住居址から弦状耳飾が1点出土した（図3No.26）。

（推定時期）いずれの住居址も時期を推定する手がかりがない。

○6号住居址（図8・図14）

G2区、石岡がらしき石組が確認され6号住居址とした。

（出土遺物）土器は曾利IV～V式を主体とする。図14No.12の両耳壺は胴部に沈線による渦巻き文、頸部に横位の矢羽状沈線文が施される。図14No.9の深鉢は口縁部から底部にかけて隆帯を貼付け、各々の中間に蛇行沈線文を垂下させている。石器は打製石斧2点、横刃形石器1点、凹石4点、磨石1点が出土した。

（推定時期）曾利IV～V式期。

○7号住居址（図4・図15～19）

G1区中央、住居のほぼ東半を調査した。

（出土遺物）土器は中期前葉から中葉にわたる。図15No.5の小型深鉢は押引と平行沈線を地文とした胎土、焼成ともに良好な精製土器である。図15No.6の深鉢には口縁部に押引による人面状装飾が施されている。図17No.31は輪積底を顎蓋にのこす洛沢式の深鉢である。石器は打製石斧14点、横刃形石器2点、凹石1点が出土した。

（推定時期）中期前～中葉。

○8号住居址（図4・図20）

G1区、7号住居址に南接して確認された。住居のほぼ中央部であろう。

（出土遺物）土器は中期中葉から後葉にわたる。図20No.18の深鉢底部は平行沈線を充填した稍円区画文とその下に二重の半円彫りの稍円文を施している。井戸尻式と思われる。図20No.5とNo.13の深鉢は井戸尻式新段階から曾利I式にかけてのものである。石器等は出土しなかった。

（推定時期）井戸尻～曾利I式期。

○9号住居址（図4・図21）

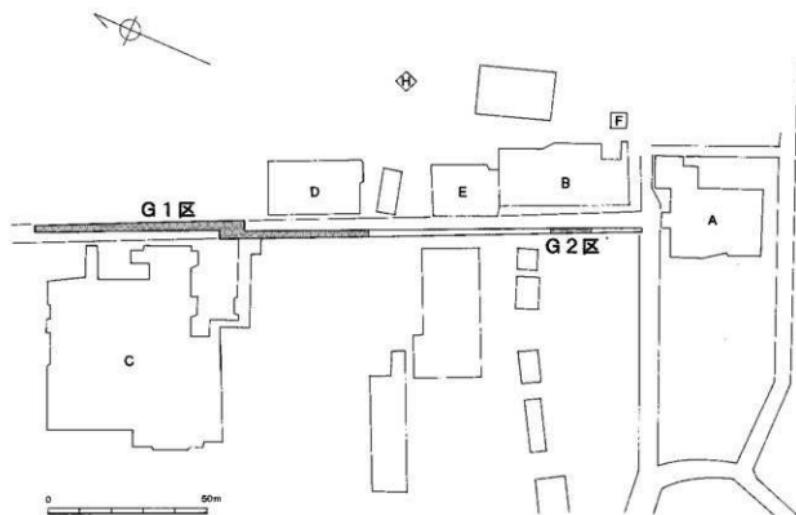


図3 調査区位置図

G1区、8号住居址に南接して確認された。住居のほぼ中央部であろう。

(出土遺物) 土器は全て中期中葉に属する。図21No.1の深鉢は同部の上下に梢円区画文を、同部中央には抽象文を施す。石器は横刃形石器1点、石皿2点が出土した。

(推定時期) 藤内式期。

○10号住居址(図8・図22)

G2区、住居西側壁部の塗付近を調査した。壁内側に埋設土器(図22No.1)が確認された。

(出土遺物) 埋設土器(図22No.1)は区画化された脣部に斜状沈縫を地文とし、蛇行沈縫文を施す。曾利IV式であろう。図22No.3の土器は覆土上層から出土した。肩部に刺突文、頸部と胴部に横位の条線文を施す。縄文時代後期後半と思われる。

(推定時期) 曾利IV式期。

2. 遺構外出土遺物(図24・図25)

遺構外からは土器片の他に器台1点と土偶の頭部が4点出土した(G1区)。図24No.1は刺突による頭髪表現があり、顔面はハート形をしている。五領ヶ台式期であろう。図24No.2は円整形頭部、ハート形顔面が施される。沼沢式期であろう。図24No.3は中期中葉の土偶であろう。図24No.4は後期前葉のハート形土偶あるいは筒形土偶と思われる。

G1区

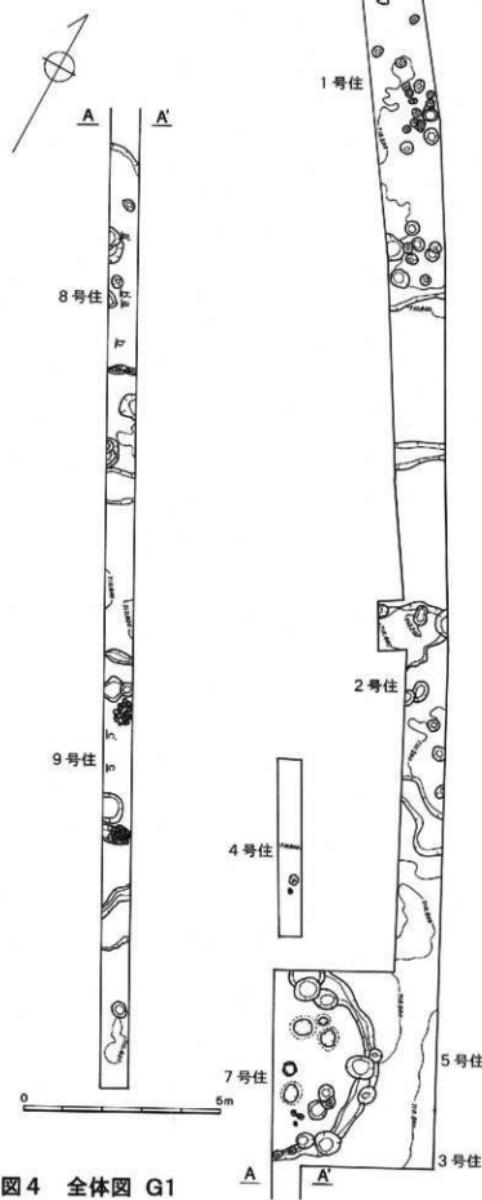


図4 全体図 G1

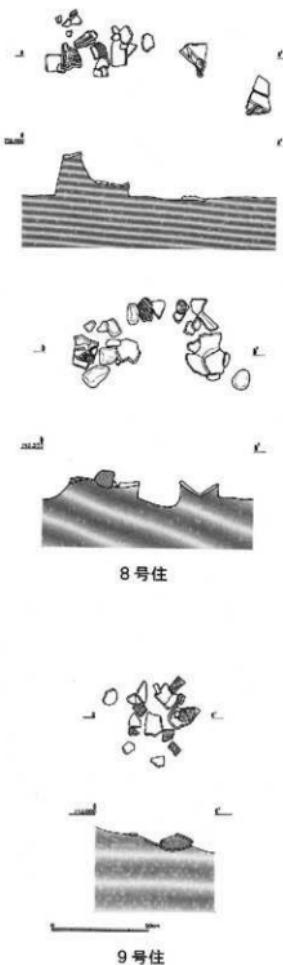


図5 土器出土状況

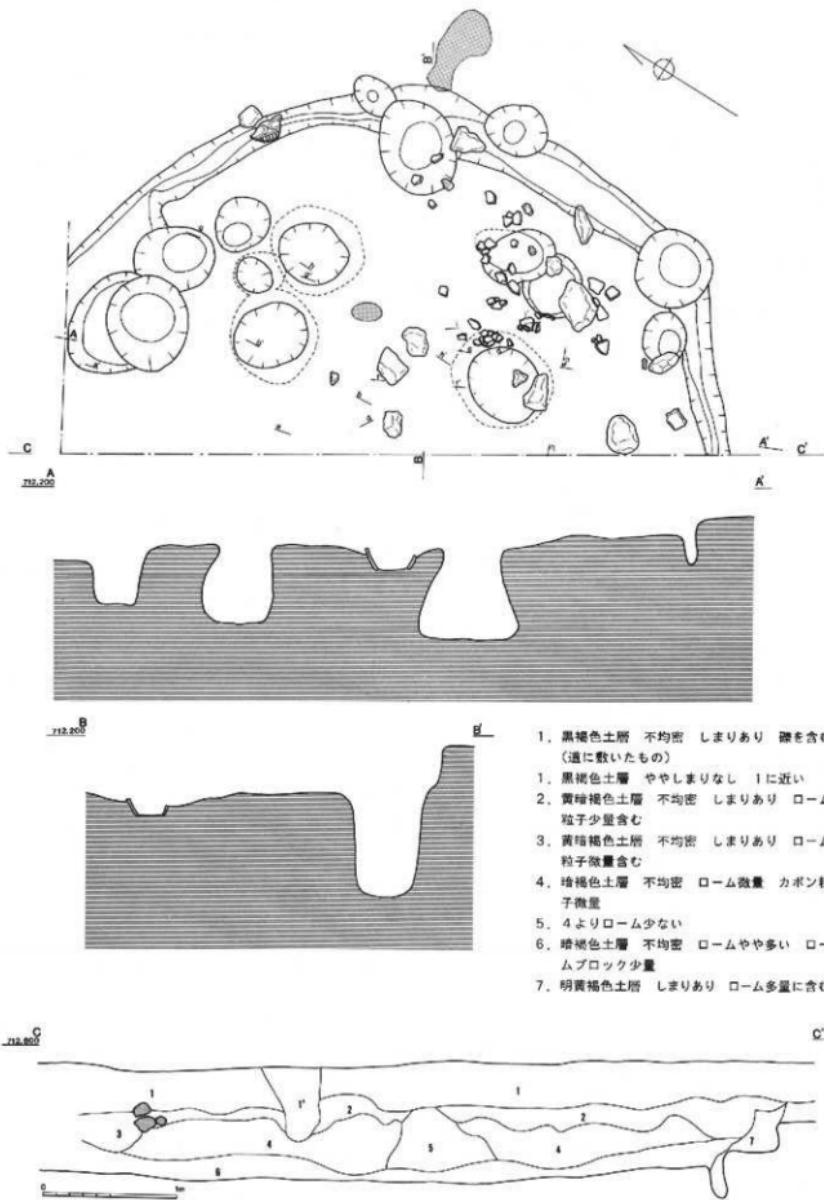


図6 7号住居址

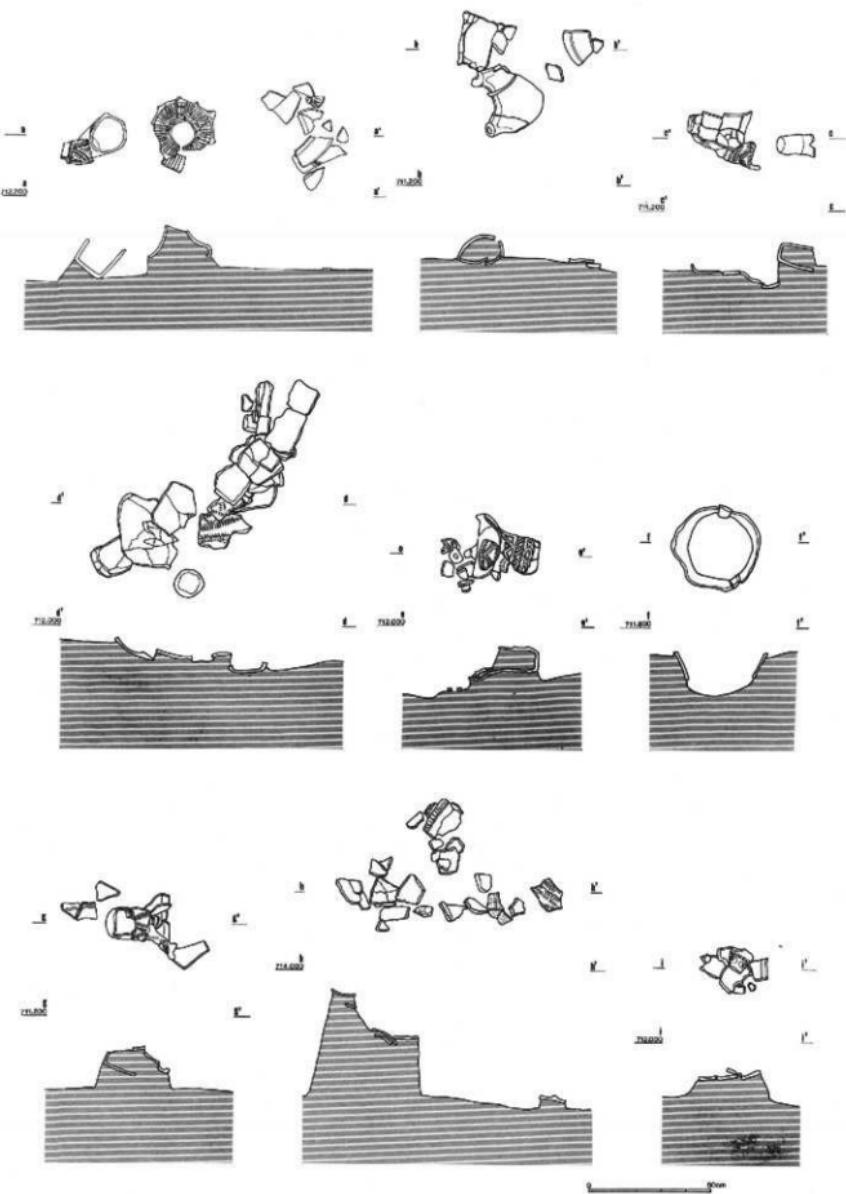


图7 7号住 土器出土状况

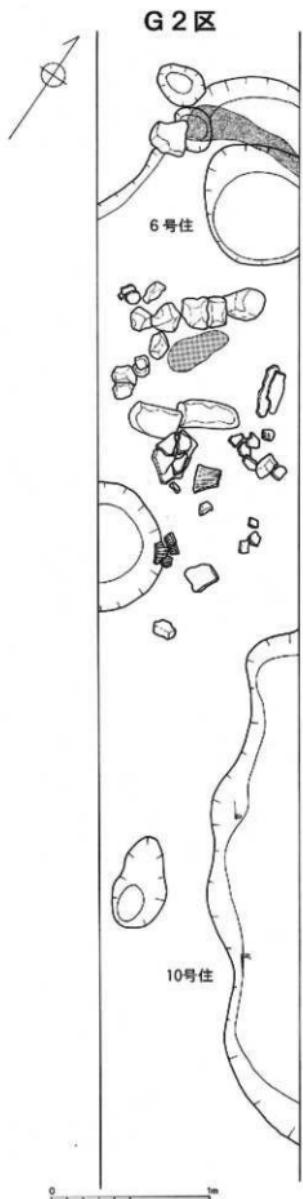


図8 6号・10号住居址

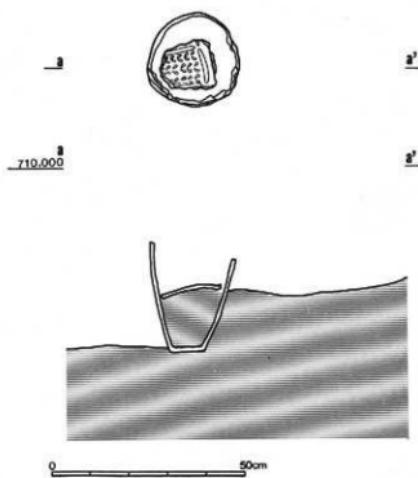


図9 10号住 土器出土状況

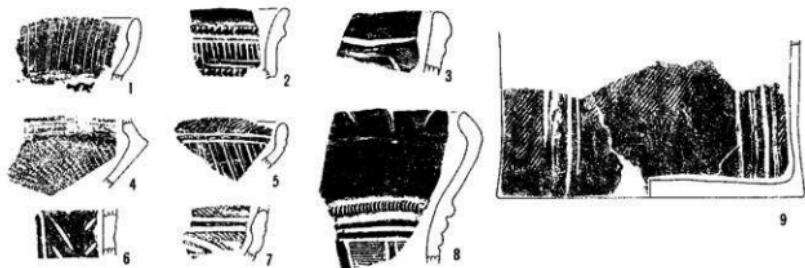


図10 1号住 出土遺物

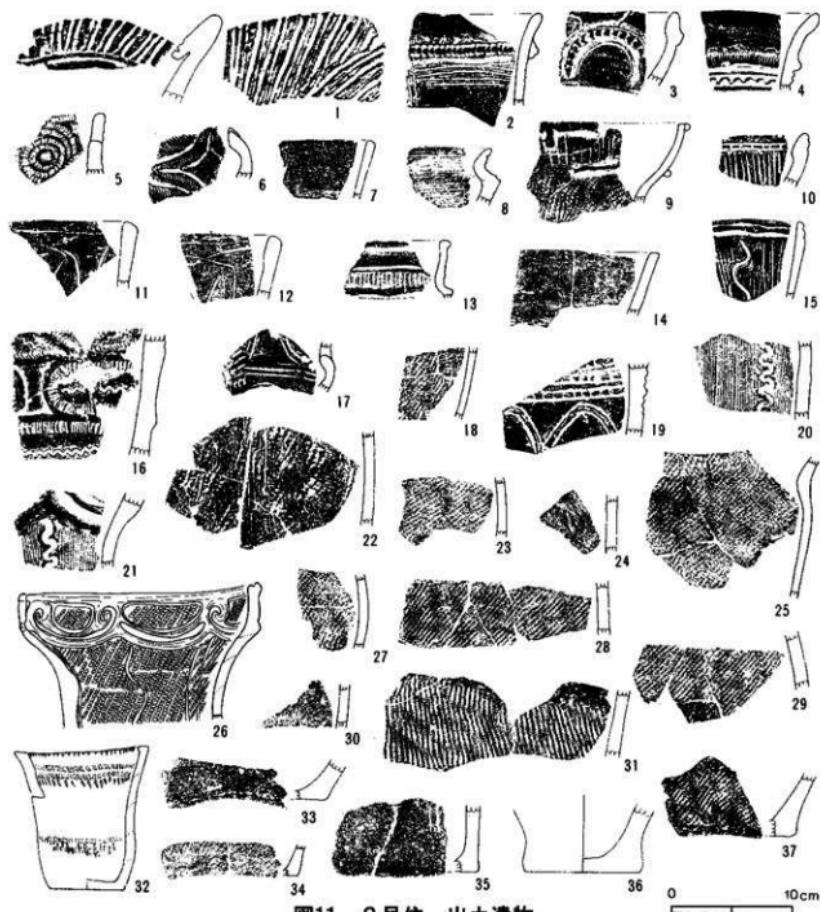


図11 2号住 出土遺物

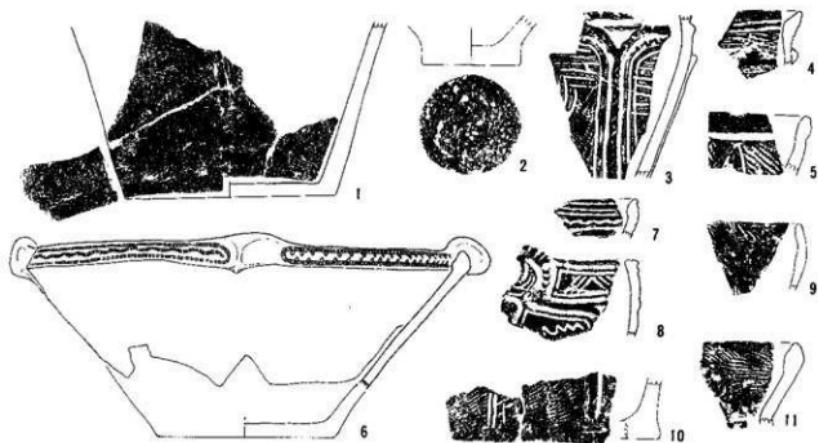


図12 3号住 出土遺物

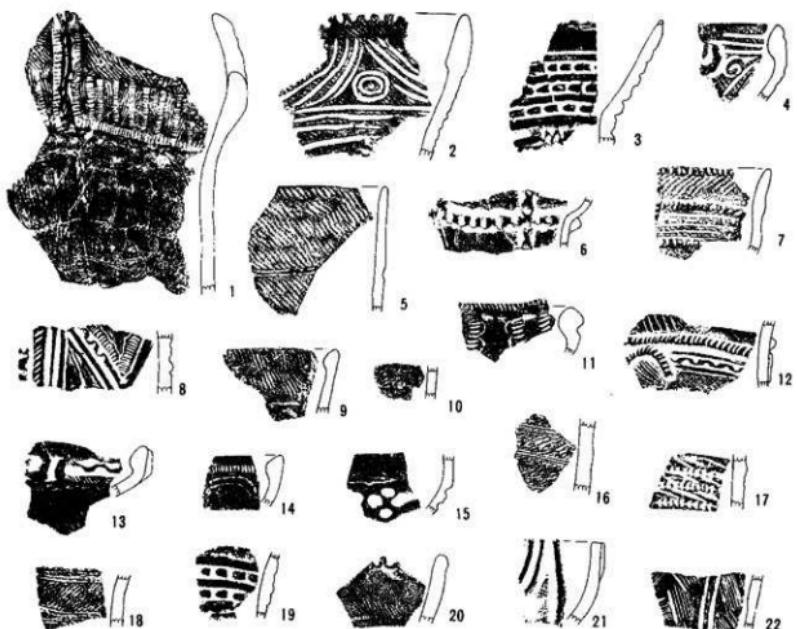


図13 5号住 出土遺物

0 10cm

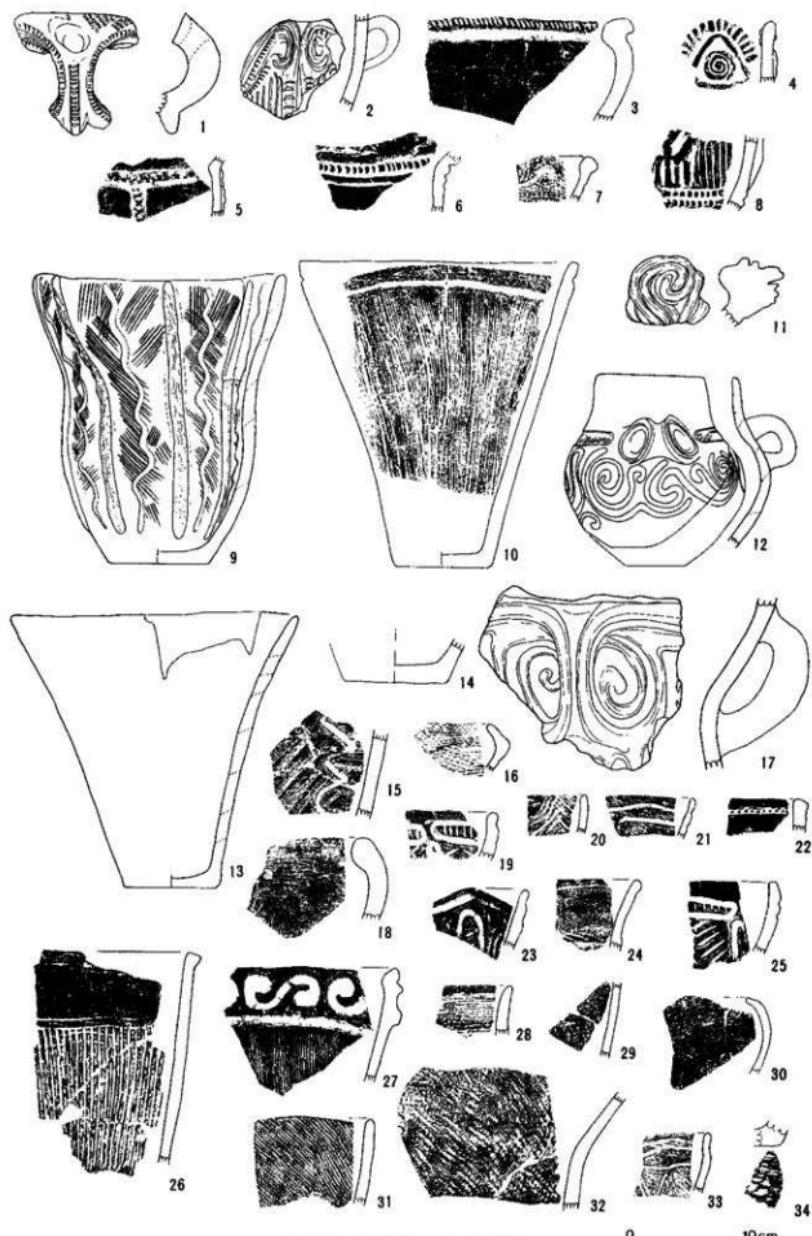


図14 6号住 出土遺物

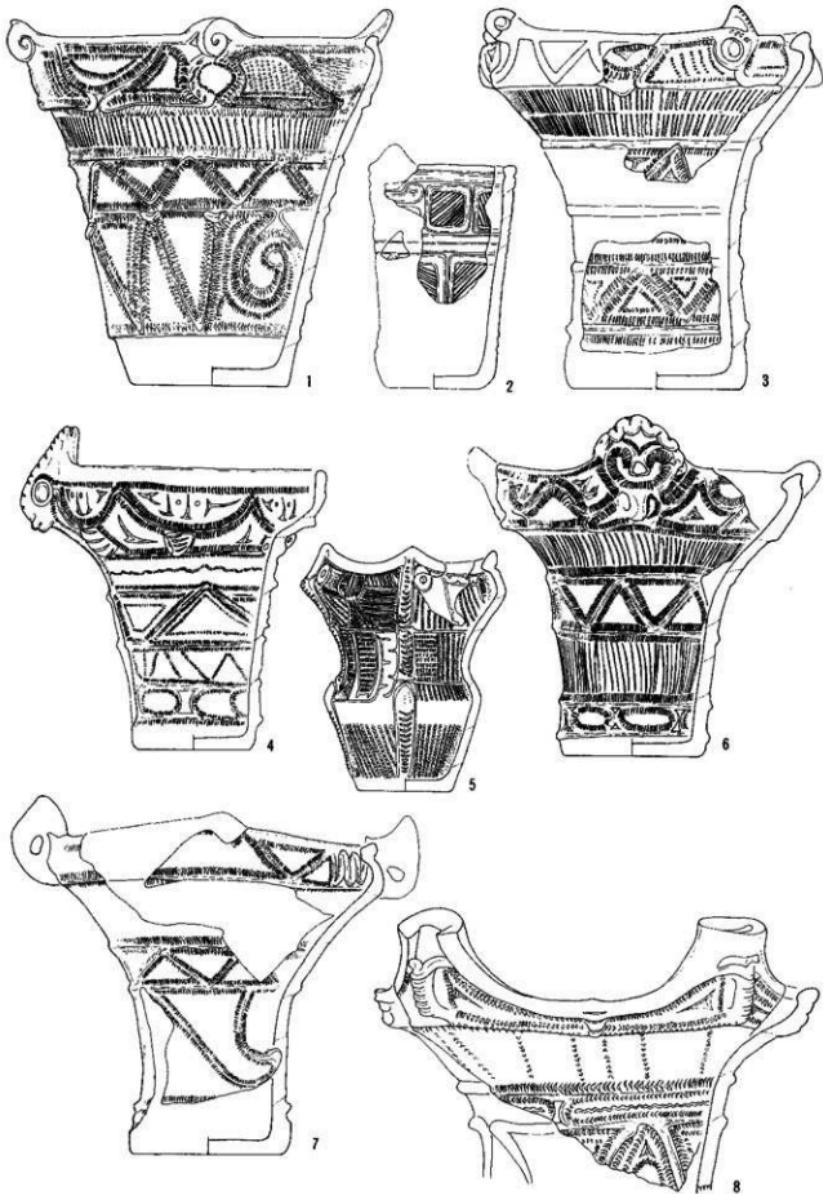


图15 7号住 出土遗物(1)

0 10cm

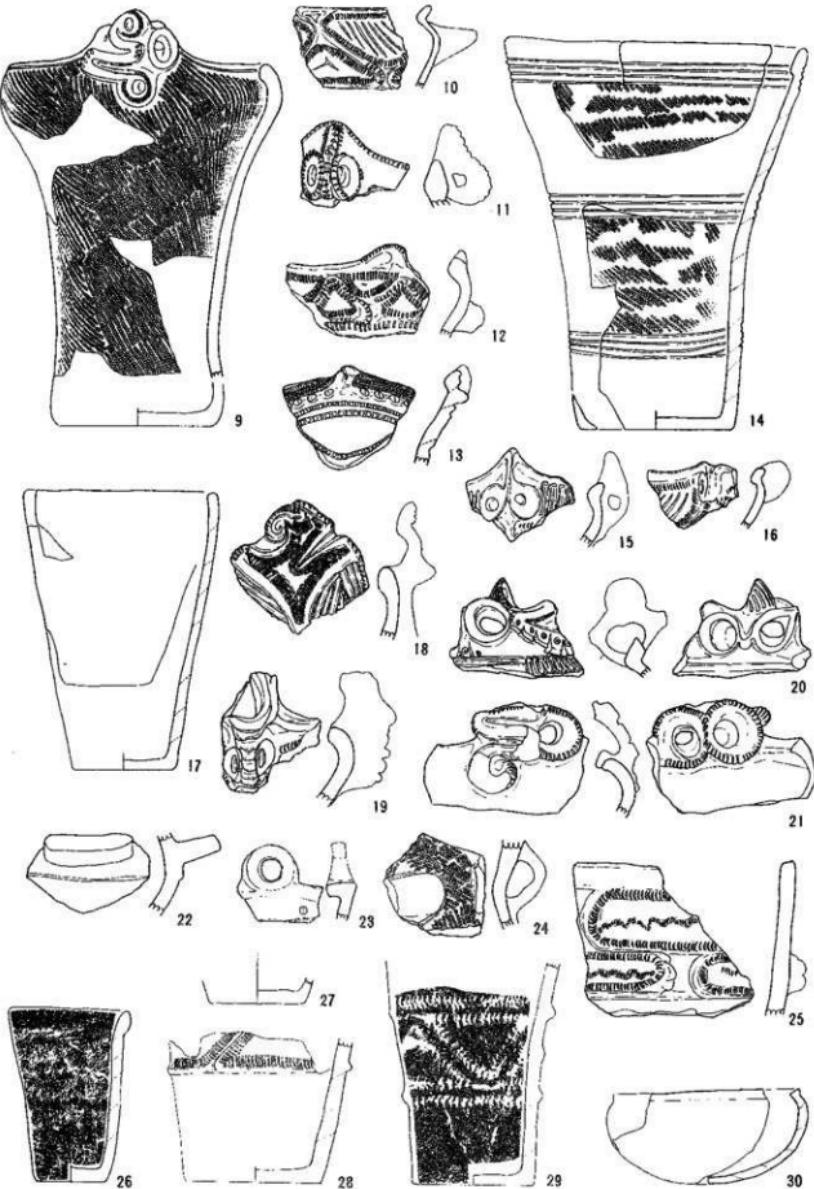


図16 7号住 出土遺物(2)

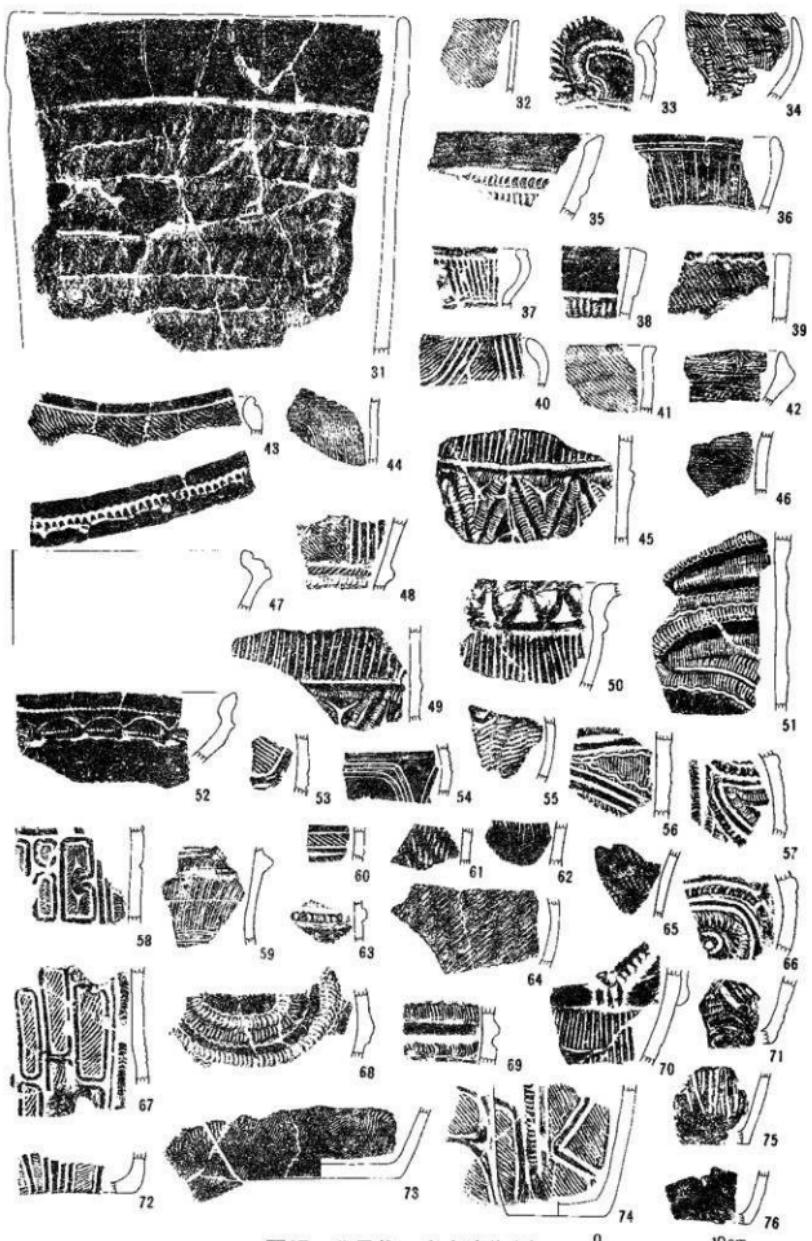


图17 7号住 出土遺物(3)

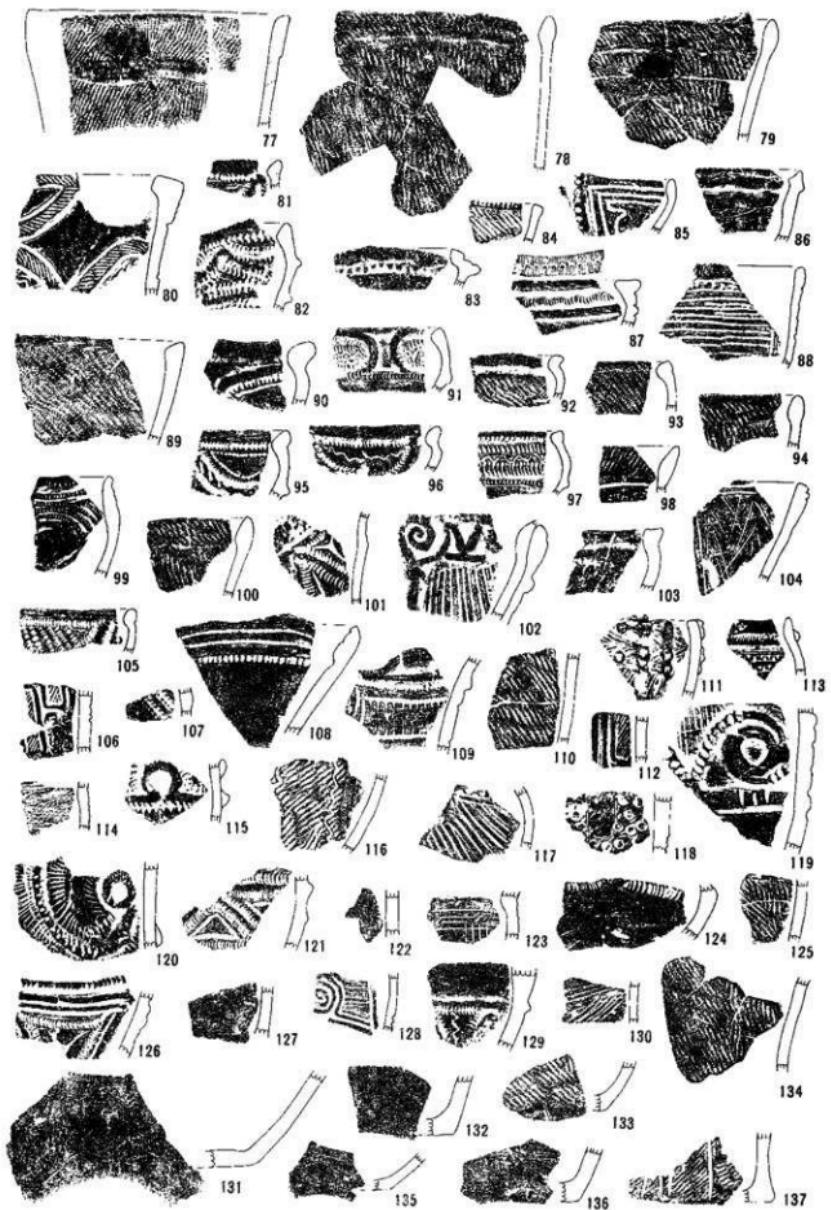


図18 7号住 出土遺物(4)

0 10cm



図19 7号住 出土遺物(5)



図20 8号住 出土遺物

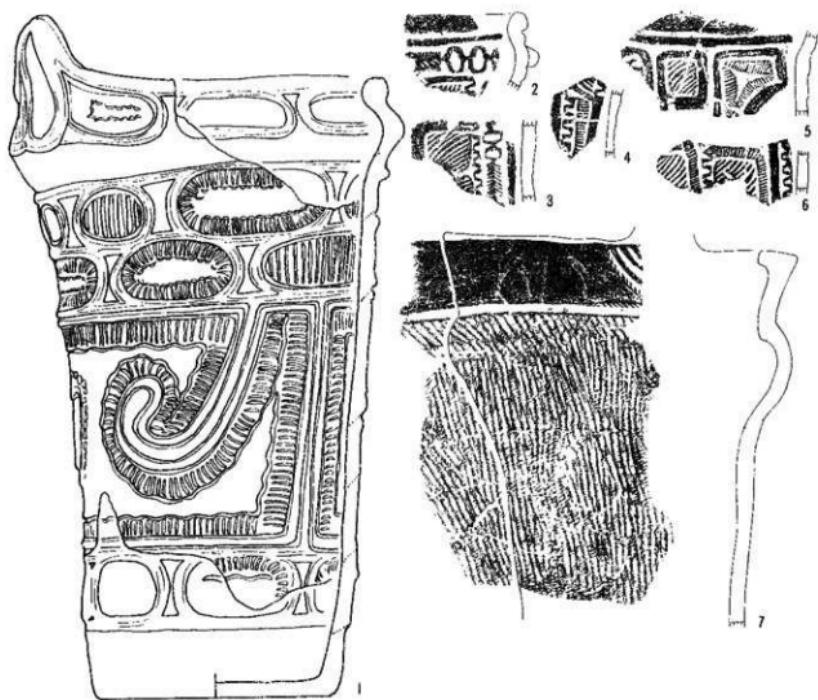


図21 9号住 出土遺物

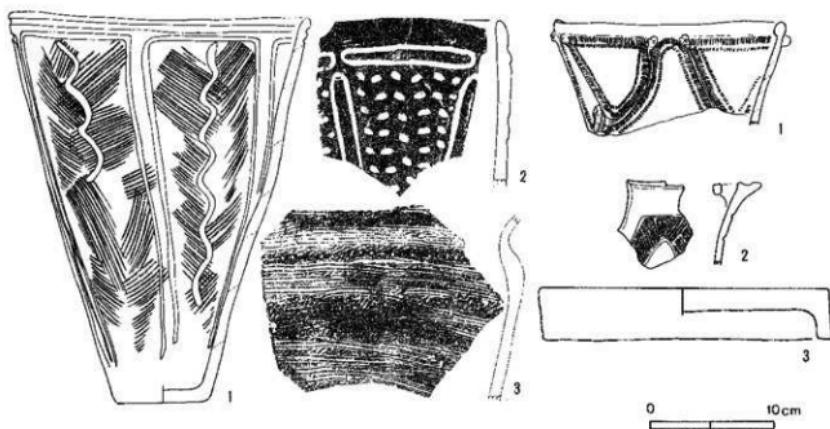


図22 10号住 出土遺物

図23 遺構外 出土遺物



図24 土偶

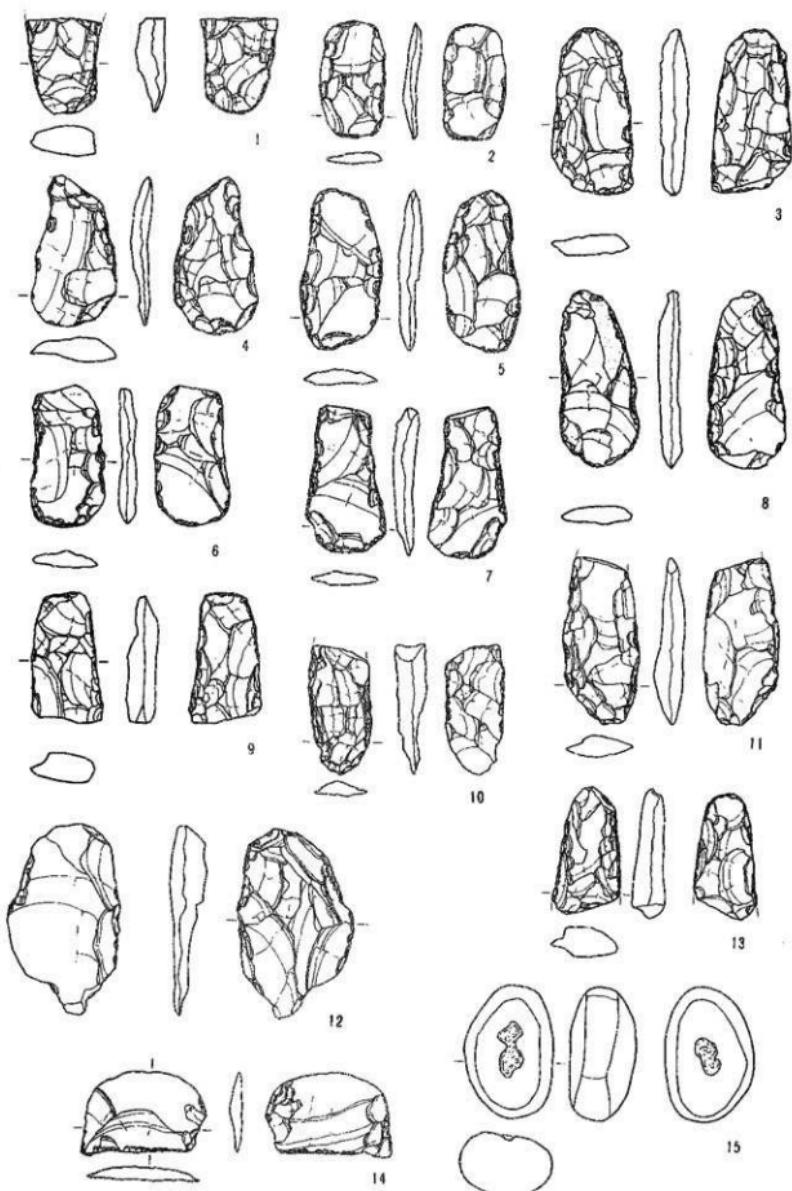


図25 1号住 出土石器

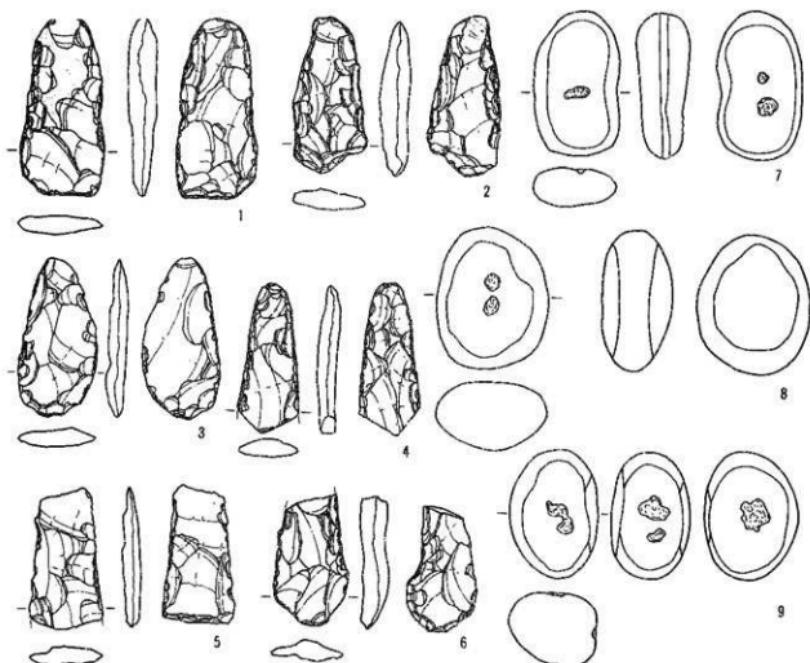


図26 2号住 出土石器

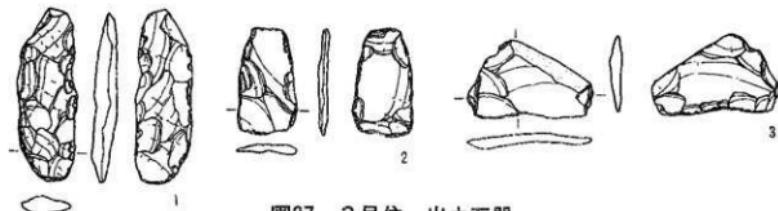


図27 3号住 出土石器

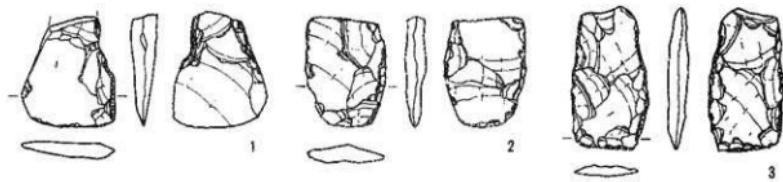


図28 5号住 出土石器(1)

0 5 10 cm

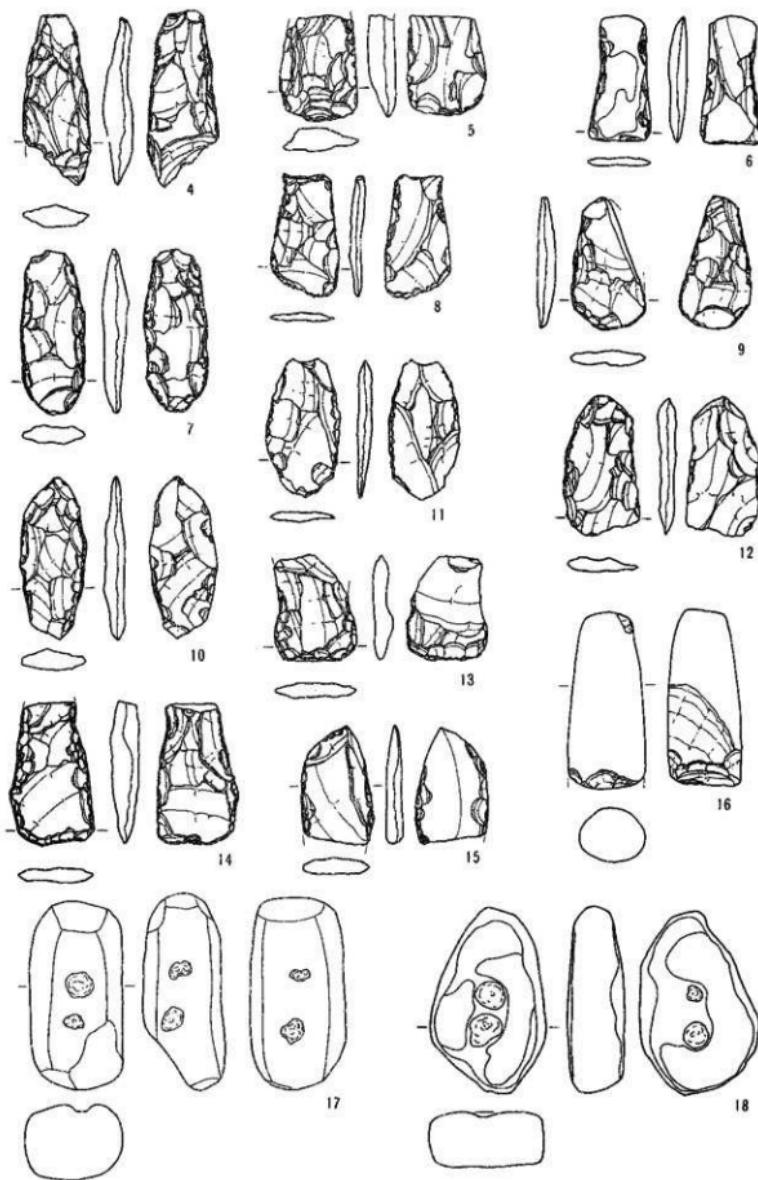


图29 5号住 出土石器(2)

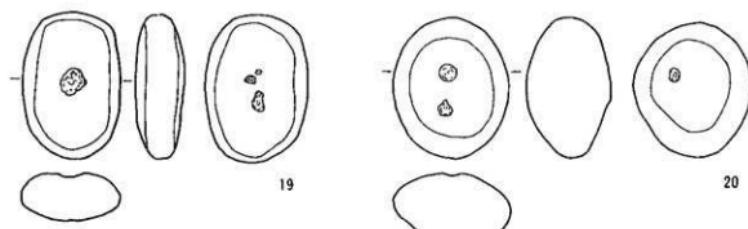


図30 5号住 出土石器(3)

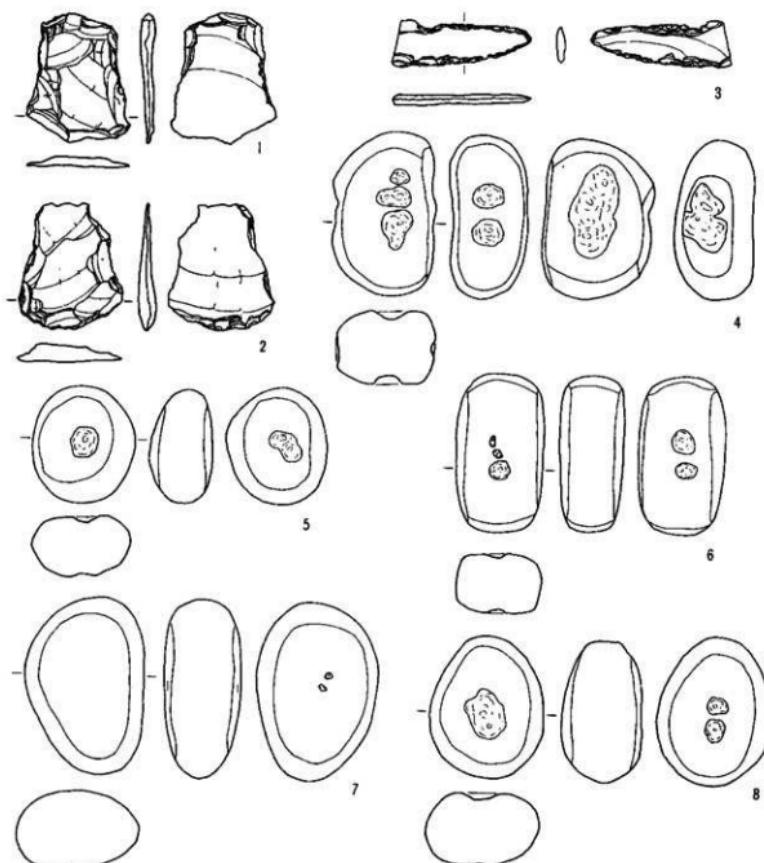


図31 6号住 出土石器

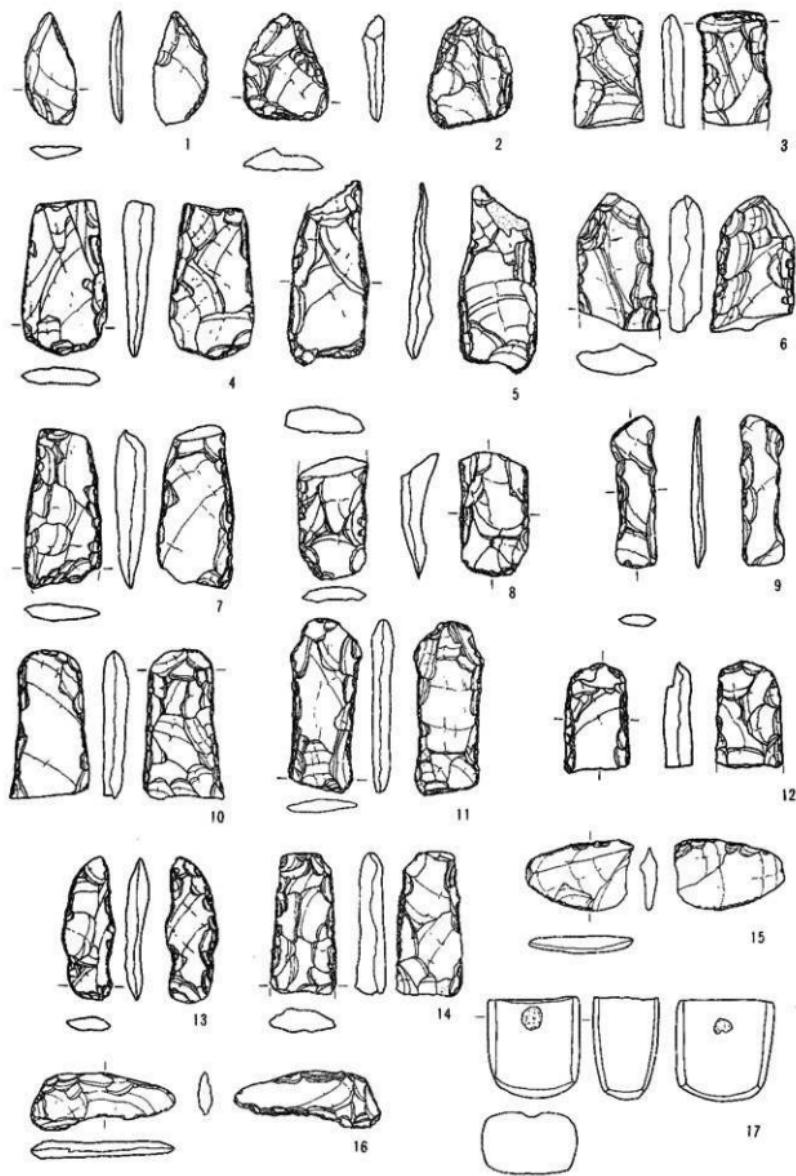


図32 7号住 出土石器

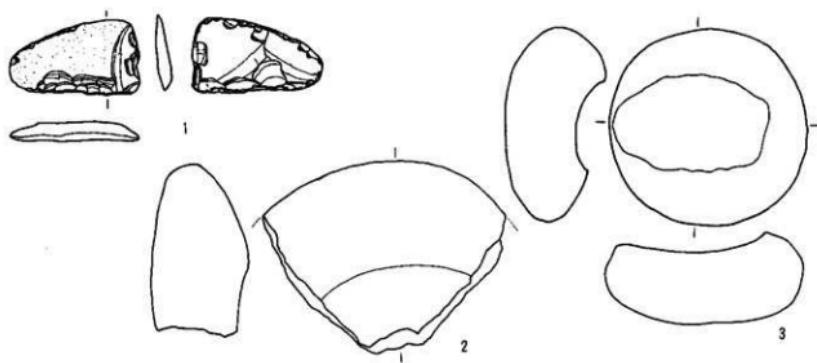


図33 9号住 出土石器

0 5cm



図34 出土石器（石鎌・石匙・石錐など）

出土石器一覧表

生 地 (出土地名)	器 形	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石 材	特 徴
1号室 (1) 打製石斧 (5.5) (5.5) 2.0 (30) ホルンヘルス							
2 号 室 打製石斧 8.0 4.5 0.9 40 磨 極 岩							
3 号 室 打製石斧 11.4 5.5 2.0 140 シルト岩							
4 号 室 打製石斧 10.4 5.6 1.8 100 六ルンヘルス							
5 号 室 打製石斧 11.0 5.8 1.6 100 砂 岩							
6 号 室 打製石斧 9.5 5.0 1.2 80 ハルンヘルス							
7 号 室 打製石斧 10.2 5.4 1.6 100 六ルンヘルス							
8 号 室 打製石斧 12.2 5.3 1.4 115 砂 岩							
9 号 室 打製石斧 9.0 5.0 2.0 (130) シルト 岩							
10 号 室 打製石斧 (9.0) 4.1 2.1 (90) 青 玉							
11 号 室 打製石斧 (11.6) 5.1 2.0 (120) シルト 岩							
12 号 室 打製石斧 13.1 7.9 2.5 235 千 扇 岩							
13 号 室 打製石斧 (8.8) 4.5 2.2 (95) 砂 岩							
14 号 室 横刃石刀 6.6 5.5 0.6 55 磨 極 岩							
15 号 室 左 手 6.2 4.4 340 鮫石安山岩 使用面2面							
16 号 室 石 剣 2.4 1.5 0.4 0.7 黑 雀 石							
2号室 (1) 打製石斧 2.3 5.8 2.0 105 砂 岩							
2号室 (2) 打製石斧 10.7 4.9 2.1 115 シルト岩							
2号室 (3) 打製石斧 9.8 5.2 1.8 80 六ルンヘルス							
2号室 (4) 打製石斧 (10.4) (4.1) 1.3 (65) シルト 岩							
2号室 (5) 打製石斧 (9.8) (4.9) 1.3 (85) 砂質粘板岩							
2号室 (6) 打製石斧 (9.0) 5.0 1.6 (95) 砂 岩							
2号室 (7) 右 手 10.0 6.0 3.6 270 鮫石安山岩 使用面2面							
2号室 (8) 右 手 9.8 7.7 4.9 290 鮫石安山岩							
2号室 (9) 右 手 8.9 8.2 5.3 370 鮫石安山岩							
2号室 (10) 右 手 (2.2) 1.4 0.3 (0.9) 黑 雀 石							
3号室 (1) 打製石斧 11.9 4.0 1.7 75 磨 極 岩							
3号室 (2) 打製石斧 7.4 4.0 5.0 25 磨 極 岩							
3号室 (3) 横刃石刀 9.7 5.4 0.6 40 砂 岩							
4号室 (1) 石 剣 2.4 1.6 2.5 250 黑 雀 石							
4号室 (2) 石 剑 (2.7) 4.0 0.5 (18) 安 山 岩							
5号室 (1) 石 剑 2.5 3.2 0.5 (5) チャート (2)							
5号室 (2) 石 剑 3.1 (1.2) 0.4 (1.1) 黑 雀 石							
5号室 (3) 石 剑 2.3 1.8 0.5 3 黑 雀 石							
5号室 (4) 石 剑 2.6 1.4 0.2 2 磨 極 岩							
5号室 (5) 石 剑 2.0 (1.4) 0.3 (1) 黑 雀 石							
5号室 (6) 砂 岩 1.9 (1.3) 0.3 (0.4) 黑 雀 石							
5号室 (7) 砂 岩 1.9 1.5 0.2 黑 雀 石							
5号室 (8) 砂 岩 (2.7) 4.0 0.5 (18) 安 山 岩							
6号室 (1) 打製石斧 (7.8) 3.4 1.1 (100) 砂 岩							
6号室 (2) 打製石斧 (7.5) 5.6 1.2 (75) 砂 岩							
6号室 (3) 打製石斧 9.8 5.6 0.7 95 シルト 岩							
6号室 (4) 打製石斧 (1.7) 4.6 1.5 (100) 砂 岩							
6号室 (5) 打製石斧 (7.2) 5.3 1.6 (70) シルト 岩							
6号室 (6) 打製石斧 8.7 4.3 0.6 75 級色基底岩							
6号室 (7) 打製石斧 11.3 4.4 0.6 100 砂 岩							
6号室 (8) 打製石斧 8.5 4.7 0.5 40 砂質シルト 岩							
6号室 (9) 打製石斧 9.0 4.8 1.0 (60) 磨 極 岩							
6号室 (10) 打製石斧 1.2 4.6 1.5 60 シルト 岩							
6号室 (11) 打製石斧 9.6 5.1 1.3 50 シルト 岩							
6号室 (12) 打製石斧 8.7 5.0 1.0 75 シルト 岩							
6号室 (13) 打製石斧 (7.3) 5.6 (100) (65) シルト 岩							
7号室 (1) 打製石斧 (9.7) 5.5 1.6 (130) 砂 岩							
7号室 (2) 砂質石斧 (6.1) 4.0 1.0 (70) 磨 極 岩							
7号室 (3) 硫黄石斧 (2.1) (4.3) (3.7) (985) 級色基底岩							
7号室 (4) 硫黄石斧 2.8 3.4 5.2 730 鮫石安山岩 使用面2面							
7号室 (5) 硫黄石斧 12.5 8.0 3.8 805 鮫石安山岩 使用面2面							
7号室 (6) 硫黄石斧 10.2 7.7 3.3 350 鮫石安山岩							
7号室 (7) 硫黄石斧 9.7 8.0 5.2 650 鮫石安山岩 使用面2面							
7号室 (8) 石 钻 (25) 6.5 0.7 6 黑 雀 石							
7号室 (9) 砂 岩 破 (24) (1.8) 0.3 (1.9) 黑 雀 石							
7号室 (10) 砂 岩 破 (23) (1.9) 0.3 (1.9) 黑 雀 石							
7号室 (11) 砂 岩 破 (25) 1.1 0.2 3 黑 雀 石							
7号室 (12) 砂 岩 破 (24) 2.7 0.5 4 黑 雀 石							
7号室 (13) 砂 岩 破 (25) (1.4) 0.4 (2.5) 石英片岩							
7号室 (14) 石 钻 (2.9) (1.8) 0.5 (5) 黑 雀 石							
7号室 (15) 石 钻 (2.4) 2.0 0.3 3 黑 雀 石							
7号室 (16) 石 钻 (2.3) 0.2 0.2 (2) 黑 雀 石							
7号室 (17) 石 钻 (3.3) 1.9 0.5 5 黑 雀 石							
7号室 (18) 砂 岩 破 (2.3) 2.1 0.6 (3) 黑 雀 石							
7号室 (19) 砂 岩 破 (2.3) 1.5 (0.3) (3.7) 黑 雀 石							
7号室 (20) 石 钻 (2.3) 1.8 0.4 2 黑 雀 石							
7号室 (21) 打製石斧 8.9 7.3 0.7 80 シルト 岩							
7号室 (22) 打製石斧 8.8 7.1 1.2 85 シルト 岩							
7号室 (23) 横刃石器 9.5 2.5 0.7 26 シルト 岩							
7号室 (24) 右 手 破 (11.3) 7.3 5.0 560 鮫石安山岩 使用面2面							
7号室 (25) 右 手 破 (7.8) 4.3 4.0 260 鮫石安山岩 使用面2面							
7号室 (26) 右 手 破 (11.8) 4.3 4.1 465 鮫石安山岩 使用面2面							
7号室 (27) 砂 岩 破 (12.2) 5.1 5.2 630 安 山 岩							
7号室 (28) 右 手 破 (8.7) 5.4 4.7 550 鮫石安山岩 使用面2面							
7号室 (29) 打製石斧 7.8 3.5 0.8 20 磨 極 岩							
7号室 (30) 打製石斧 7.2 5.7 1.6 73 シルト 岩							
7号室 (31) 打製石斧 (7.9) 4.7 1.1 (80) シルト 岩							
7号室 (32) 打製石斧 11.7 5.7 1.1 160 シルト 岩							
7号室 (33) 打製石斧 (9.5) 5.3 2.2 (140) ホルンヘルス							
7号室 (34) 打製石斧 (13.9) 6.1 1.1 (150) 砂 岩							
7号室 (35) 打製石斧 (8.6) 4.5 3.9 (95) 砂 岩							
7号室 (36) 打製石斧 1.5 2.8 0.7 30 磨 極 岩							
7号室 (37) 打製石斧 (12.9) 5.4 1.3 (130) ホルンヘルス							
7号室 (38) 打製石斧 11.8 4.6 1.2 (110) 磨 極 岩							
7号室 (39) 打製石斧 (7.2) 4.4 1.2 (95) シルト 岩							
7号室 (40) 打製石斧 9.8 2.5 0.9 50 砂 岩							
7号室 (41) 打製石斧 (9.7) 4.5 1.6 (120) シルト 岩							
7号室 (42) 横刃石器 7.2 4.8 1.1 50 砂 岩							
7号室 (43) 横刃石器 6.7 3.8 0.9 43 砂 岩							
7号室 (44) 右 手 破 (6.9) 8.3 4.1 (340) 鮫石安山岩 使用面2面							
7号室 (45) 右 手 破 (16.3) (3.0) (6.6) 1500 安 山 岩							
7号室 (46) 右 手 破 (14.5) 1.9 5.8 1300 鮫石安山岩 使用面2面							
7号室 (47) 右 手 破 (2.0) 1.7 0.2 14 黑 雀 石							
7号室 (48) 右 手 破 (8.7) 6.1 0.9 80 ホルンヘルス							
7号室 (49) 右 手 破 (1.6) 1.5 0.2 0.4 黑 雀 石							
7号室 (50) 右 手 破 (2.4) 1.6 0.3 1.7 チャート							

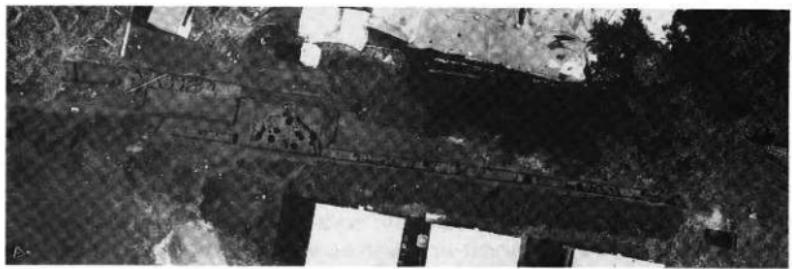
第4章 まとめ

下水道敷設にともなう幅90cmのトレンチ発掘調査であったが、推定10軒の住居が確認されるとともに、とくに洛沢・新道式から藤内式の土器がまとめて出土し、当初の予測を上回る調査成果が得られた。冒頭でも述べたように、本調査区の周囲は全面約1haを山梨県埋蔵文化財センターが本調査と並行して発掘が進められている。その成果は逐次公表されていくものと思われるが、遺跡全体では前期後半から中期後半にかけて少なくとも200軒以上、後期初頭1軒の住居址が調査されており、八ヶ岳南麓でも最大規模に属する縄文時代遺跡であることに間違いはない。本調査(G区)の位置づけも、調査区全体の成果のなかで検討していくべきであろう。

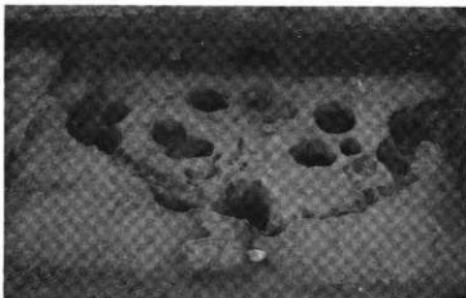
そのなかで、遺構外から後期の土偶頭部が1点出土した。壠之内式期と思われるこの土偶は狭い調査区で、他調査区の整理報告作業が進んだ時点ではないと確定的なことは指摘できないが、頭部のみの出土であること、現時点で全調査区において後期の遺構、遺物が非常に少ない(A区住居址は称名寺式期)ことを考えあわせると、この土偶が何らかの事情によりこの場に運び込まれた可能性がある。酒呑場遺跡の立地する大地の南側約700m低位面に立地する長坂上条遺跡が後晩期の包蔵地として知られ、現在も大量の遺物が散布している。これまでの調査成果からは酒呑場遺跡の地がおよそ後期中葉をもって生活拠点としての機能を終焉したと予測されるが、長坂上条遺跡においては逆に、主として後期中葉以降が継続期間と考えられ、この土偶がこの二つの時期を異にした生活空間をつなぐ手がかりなのかもしれない。

参考文献

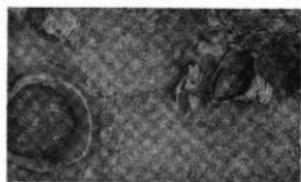
- 山本茂樹ほか 1995「酒呑場遺跡」『年報』11 山梨県埋蔵文化財センター
大山 柏ほか 1941「山梨県日野春村長坂上条発掘調査報告」『史前学雑誌』13-3 史前学会
櫛原功一 1996「山梨県の中期土偶」『土偶シンポジウム4長野大会 中部高地をとりまく中期の土偶 シンポジウム発表要旨』
今福利恵 1996「中期前半 山梨県の様相」(同上)
谷井 雄ほか 1982「縄文中期上器群の再編」『研究紀要』埼玉県埋蔵文化財調査事業団



图版1 酒香场遗迹G1区全景



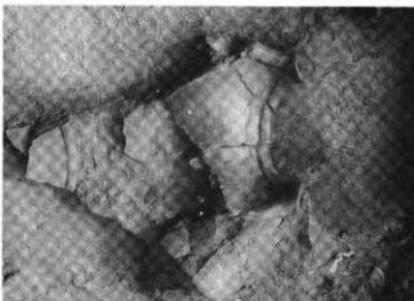
图版2 7号住址全景



图版3 7号住址器出土状况



图版4 7号住址器出土状况

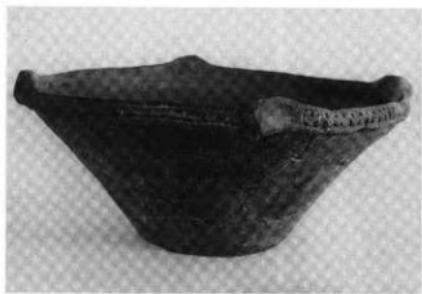


图版5 7号住址器出土状况

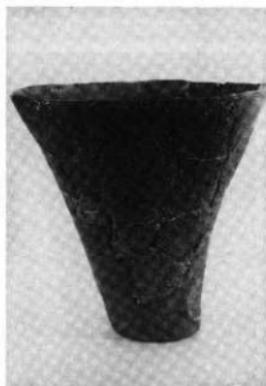


图版7 2号住址器

图版6 6号住炉周边



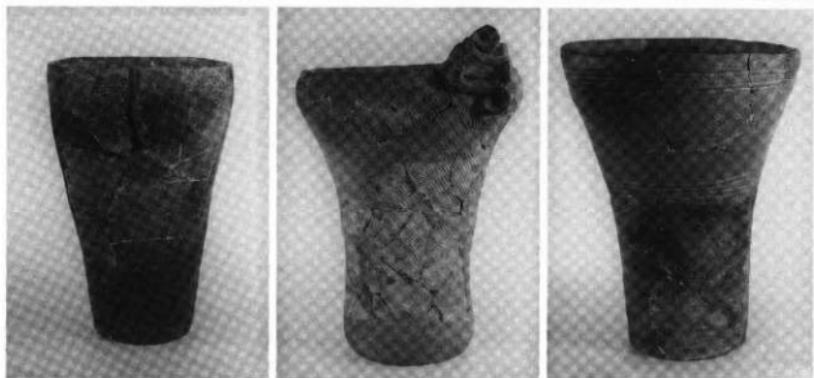
图版8 3号住出土土器



图版9 6号住出土土器



图版10 7号住出土土器



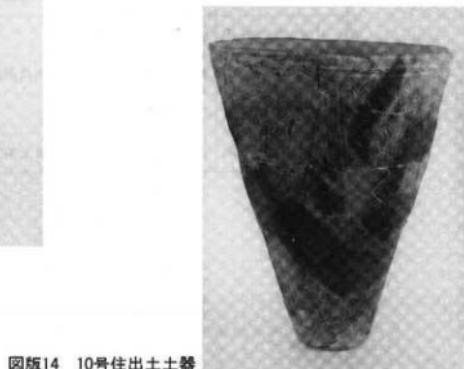
图版11 7号住出土土器



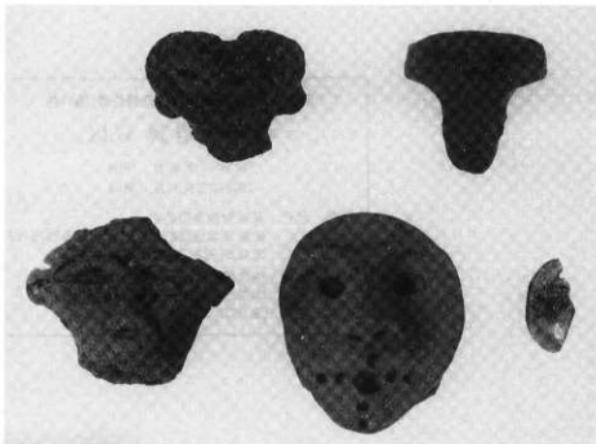
图版12 8号住出土土器



图版13 9号住出土土器



图版14 10号住出土土器



图版15 土偶·块状耳饰

報告書概要

書名	酒呑場遺跡 G区			
シリーズ	長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書 第11集			
著者名	小富山 隆			
編集・発行者	長坂町教育委員会			
住所・電話	山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2575-19 TEL 0551-32-2111			
印刷所	峡北印刷株式会社			
印刷日・発行日	1996年3月20日・1996年3月31日			
酒呑場遺跡 G区	25000分の1地図名・位置・標高	長坂上条	北緯 35°49'05" 東経 138°22'16"	710m
概要	縄文時代中期			
主な遺構	縄文時代中期前葉～後葉の住居址10軒ほか			
調査期間	1995年7月～1995年10月			
所在地	山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条字酒呑場			

長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書 第11集

酒呑場遺跡 G区

1996年3月20日 印刷

1996年3月31日 発行

編集・発行 長坂町教育委員会
 山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2575-19
 TEL 0551-32-2111

印 刷 峡北印刷株式会社
 山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2313
 TEL 0551-32-3245

